

金光教日本橋教会

御祈念詞



平成三十一年一月版

目次

信心の稽古場	1
御神伝	2
日本橋教会祈願詞	3
神前拝詞	5
天地書附	9
取次唱詞	10
ご神前ご祈念詞	11
唱名祈願	20
神徳賛詞	21

歴代教主奥城拝詞	41
難波親教会 近藤藤守先生靈前拝詞	43
首都圏布教祈願詞	45
東京親教会 畑(徳三郎)先生靈前拝詞	47
神人の栄光	48
おやがみさま	49
親神のよぎしのままに	50
新しいいのち	51
世界を笑顔に	52

金光大神賛仰詞（九日、十日）

天地賛仰詞（廿一日、廿二日）

神人あいよかけよの生活運動

ご霊神総拝詞

霊前拝詞

ご霊前ご祈念詞

朝暮略詞（祖先朝暮拝詞略詞）

祖先賛詞

御神訓

新霊神拝詞

日本橋教会墓前ご祈念詞

22 25 27 28 29 31 33 34 37 38 39

信心のけいこ場

日参 にっさん

日々朝晩の拝礼

月の三日参り さんじつまい

朔日、ついでち金光大神祭日、まつりび天地金乃神祭日まつりびに

本社への参拝 もとやしろ

折々に おおもとやしろ 大本社 御本部、御霊地のこと、て 手続の本 もと 親教会、恩師の教会 へも

御神伝ごしんでん

(明治六年(一八七三)十月十日・金光大神御覚書)

天地てんち金かね乃の神かみと申すことは、天地の間に氏子おっておかげを知らず、
神かみ仙せんの宮みや寺てら社しろ、氏子かたくの家宅かたく、みな金神こんじんの地所ちどころ、そのわけ知らず、
方角日柄かたがひばかり見て無礼むれいいたし、前々ぜんぜんの巡めぐり合あわせで難がたを受け。

氏子うぢこ、信心しんじんいたしておかげ受け。

今般いま、天地てんち乃の神かみより生神いきがみ金光こんこう大神だいじん差さし向むかひ、願ねがう氏子うぢこにおかげを授たまけ、理解りかい申まして聞きかせ、末々すえすえまで繁盛はんじょういたすこと、氏子うぢこありての神かみ、神かみありての氏子うぢこ、上下かみしも立たつようにいたし候まう。

日本橋教会祈願詞

*一八九一年春（明治二十四年）布教開始より起算

生いき神がみ金こん光こう大だい神じん様

天てん地ち金かね乃の神かみ様

生いき神がみ金こん光こう大だい神じん様

天てん地ち金かね乃の神かみ様

われら限りなき親おや神がみのみめぐみに生かされつつ、

ここに日本橋教会布教*

年を迎え、

先覚先人の偉徳いとくを仰あおぎ奉まつり畏かしこみ奉まつり、

その伝道もんどうの基もとに思おもいを馳はせ、

その求道もとみちの真まことを受け継つぎて、

けわしき今の世にゆるぎなき信心あゆの歩あゆみを踏ふみ広ひろげ、

いよよ御取次おんとりつぎを頂いて、

神と人とあいよかけよで立ち行く世界を顕現けんげんせんものと、

心結び力合わせて雄々おおおしくも世の難儀に立ち向かい、

生き生きと道の展開を貫ついでかしめ給えと、

慎つしみてご祈願申し上げます。

生神金光大神様

天地金乃神様

生神金光大神様

天地金乃神様

神前拝詞

畏しやかしこ（先唱者）

天つ日の輝きあまひ 大地の育みおおつち はぐく、

時移るとも絶ゆることなくときうつ た 年巡るとも尽くることなしとしめぐ。

天地に生命ありて万の物生かされてんち いのち よろず 天地に真理ありて万の事整うまこと よろず。

かくも奇しきみ姿大いなるみ働きをくす おお、

天地金乃神と仰ぎまつりて称えまつらんた。

わきても神は 天地の間に住む人皆を 神の氏子と慈しみたもうかみ てんち かみ うじこ いつく。

人とある身は 神をわが親神と慕いまつりてかみ した、

限りなき恵みのなかに生かされて生くることこそ道理なれ。

かかる道を知らずして我情我欲に惑まどいつつ、

前ぜん々の巡めぐり合あわせで 難がたを受けおる人の多おほきぞ神かみの嘆なげきなる。

わが教祖金光大神いくそたび人の世の苦難に出いで会あいつつも、

実意じつい丁寧ていねい神信心かみしんじんを貫つらぬきたまい、

例ためしなき神かみみかげ生まれ 神かみと人とのあいよかけよの生活はじまりゆきぬ。

尊とうとしや (先唱者)

親神かみの久ひさしき願ねがいここに現あられ、

神かみも助たすかり氏子うぢこも立ち行く 取次とりつぎの神依かみよさしを金光大神かみ畏かしこみて受けたまい、

昼ひるは参まゐるる人に天地の恵あまみを説とき 信心しんしんの道みちを教しえて暮くるるを知らず、

夜は苦しみ悩める人の立ち行きを願ひ 助かりを祈りて明くるを覚えず。
年経り世は変われども

揺るぐことなく身を尽くして取次のみ業務めたまいしほどに、
畏き天地書附定まり 神みかげ新たに神ひれい遍く、
永久に榮行く生神金光大神取次の道厳しくも開かれゆきぬ。



神縁まことに不思議にして 今この道に出で会うを得たり。

身の痛み心憂きこといかなる世の難あらんとも、

わが心神に向けよと取次の道立ちてあり。

昼夜を分かつた遠き近きを問わず、

隔てなき祈り持てよと取次の道立ちてあり。

あわれ神愛かんにつくしみ知らで過こごせし無礼むれいを詫わび改かまりを祈いのりつつ、
生活せいふのなべてを信心しんと勤いそしみ、
深く厚あつき神かみみかかげ悟さとりては喜よろこびを深ふかくし、
痛みある人ひといたわりては道みちに誘いざない、
迷まよいある人ひと導みちきては甲斐かひある生命いのちに目覚めめしめ、
氏子うぢこありての神かみ 神かみありての氏子うぢこ、
あいよかけよで立ち行く道みちを世よに現あらわさしめたまひ、
総すべ氏子うぢこ身上しんがん安全あんぜん世界せかい真まことの平和へいのご神願しんがん、
成就じゆうじゆせしめたまえと願ねがひまつる。
成就じゆうじゆせしめたまえと願ねがひまつる。

天地書附 奉体

(先唱者)

生神金光大神

いきがみこんこうだいじん

(一同)

生神金光大神

いきがみこんこうだいじん

天地金乃神

てんちかねのかみ

一心に願。

いっしんねがえ

天地金乃神

てんちかねのかみ

一心に願。

いっしんねがえ

(先唱者)

おかげは和賀心にあり。

わがこころ

(一同)

おかげは和賀心にあり。

わがこころ

(先唱者)

今月今日でたのめい。

こんげつこんにち

(一同)

今月今日でたのめい。

こんげつこんにち

とり つぎ しよう し
取次唱詞

(先唱者)

いきがみこんこうだいじんおんとりつぎ
生神金光大神御取次。

(一同)

ま(ひと)
真一心に願わしめたまえ。

日に日に新たに頂かしめたまえ。

(先唱者)

生神金光大神御取次。

(一同)

真一心に願わしめたまえ。

日に日に新たに頂かしめたまえ。

生神金光大神様 生神金光大神様。

生神金光大神様 生神金光大神様。

ご神前ご祈念詞

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地の大親神様。

一、教祖生神金光大神様の御取次おんどりつぎをもちまして、

世の本もとつ大親神様おやおやがみ（乃神様天地金乃神様）にご拝礼申し上げます。

一、私共は本来「何事も釘くぎづけならぬ世」にありまして、無力無一物なる身でありながら、広大なる天地の生きたる御働みきに

よりまして 本日も尊い生命いのちを授かり、息が出来・血が巡りめぐ
内臓各器官より大小便まで通じ、目が見え・耳が聞こえ・口
がきけ、頭の先より手足の末までお守りいただいております
こと、真しんにありがたしと厚く御礼申し上げます。

一、私を始め信奉者一同、さらには世界なべ総ての氏子てんおんは、天恩ちおん・地恩
の内に、あるいは目に見えるおかげ・目に見えぬおかげ知っ
たおかげ・知らぬおかげの中で、衣食住・心身一切のお授
け・お守りを頂いておりますこと 厚く御礼申し上げます。



一、さりながら私どもはそのおかげを知らず、あるいは神様の
御物おんもの・御差おんし向けを受け違い、人に物に事柄に喜びを忘れ、

我情我欲のままに、御心みこころを痛めておりますこと 改めておわび
申し上げます。

一、この上は油断・慢心なくさらにご無礼・不行き届きのところもお気づけ下さり、天地書附の祈念に従い、万事おかげを蒙らせて頂きますよう御願ひ申し上げます。



一、この年も地産水産大経済循環安定・社会平穩・諸国共栄を始め、失難しつなん・火難・水難・地震難・不時災難のお守りを頂き、更には各々の祈念お聞届ききとどけ下さり、我らもまた人を助けて親神様と共に喜ぶ身とならせていただけますこと御礼御願おんれいおんねがひ申し上げます。

○

- 一、農工商業を始め公務公益に至る^{すべ}全ての産業・家事家業に携わ^{たずさ}る氏子、職は皆、天地の恩恵に基づく「神様の御用」と戴^{いた}き、
自営・代表を勤めます氏子、金銭・商品・道具の扱^い・人との
応対・従業員一同の上^に祈りを込め、
組織の中で働く氏子、職場のおかげ・人のおかげの下^{もと}に大業成就
の祈念をもちて、いづれも心身健康・社会貢献・生活充実のお蔭^{かげ}を
蒙り、大きなお役に立たせて頂^けますこと御礼御願^い申し上げます。
一、乗り物運転の氏子・各交通機関・各器具機械利用の氏子、道
中・利用中のお守りに御礼御願^い申し上げます。
一、心身不調不安の氏子、改めて只今のいのち・衣食住に真実御礼

を申し、神様のお手当てをお頼み申しますので、速すみやかに全快本復
させて頂けますこと、かつ本人はもとより家内一同、難なはみかげと
病い恩んのおかげを分わからせて頂きますこと御礼御願い申し上げます。
一、健康の氏子・余暇休養中の氏子、自他共にこれを尊たびたい体の丈
夫を願い体たい作りに努められますこと御礼御願い申し上げます。
一、父母を持つ氏子、些いささかにも孝こうを尽つくし、親子が共に助たからせて
頂たげますこと御礼御願い申し上げます。

一、家庭を営む氏子、家内円満・神縁成就を常に願い一家健康・
一族共栄とならせて頂たげますこと御礼御願い申し上げます。

一、懐妊を願いう氏子、これまでの成長・良縁を顧かえりみ喜よび、時期適切
に懐妊のおかげを蒙あらせて頂たげますこと御礼御願い申し上げます。

一、懐妊中の氏子、神の氏子のお授けと時々刻々只今までの發育に厚く御礼を申し上げますと共に、肥立ち・安産の上御願ひ申し上げます。

一、成長期の親子、心身ともに健全丈夫にお育て頂き、親も育ち、子も成長させて頂きますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、学業・稽古に励む氏子、神を忘れず通学鍛錬・進級卒業の上、世のお役に立たせて頂きますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、就職を願う氏子、宜しき職場をお与え下さり、いずれも尊い家業として勤務全^{まつと}う發展させて頂きますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、年頃の氏子、今日^{こんにち}までの育成・お守りに御礼申し上げますと共に、ご良縁成就の上御願ひ申し上げます。

一、单身生活の氏子、健康・経済・家業出精^{かぎようしゆつせい}・末々安心^{すえずえ}の上御礼御願

い申し上げます。

一、高齡の氏子、それぞれ身にふさわしいお役をさせて頂き、老後安心のおかげを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、旅行中の氏子・遠方におります氏子、道中留守中ともお守り・お導き頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、土地建物願う氏子、全て神様のお土地お建物としてよろしきお繰り合わせを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、不時災難に遭あいました氏子、この御差おんし向けなに萎なえることなく、速すみやかに生活立ち直らせて頂き、出来る限りの親切を尽くし合い、復興倍旧の展開を頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、罪おかを犯せる氏子、天地の正道に戻らせて頂き、被害者並びに両

家族共々立ち行かせて頂きますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、縁ある靈の上、天地の懐に深くお抱き下さり、神・靈・人共に

安心のおかげを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、応恩志す氏子、人に神に取次に心尽し、親神様の御心に添う

働きにならせていただけますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、教主金光様を始め 全国の教師・輔教・信奉者御用の上、本

部広前・全国の教会・親教会・各連帯活動・当教会・各人広

前働きの上、御礼御願ひ申し上げます。

一、未信・薄信・難儀の氏子、速やかにご縁をこうむり、安心の道

お導きを頂けますこと御礼御願ひ申し上げます。

一、信心致します氏子、御教えを行じ、真の信心お引き立ての上、

まこと
真のおかげを蒙らせて頂きますこと御礼御願ひ申し上げます。

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地の大親神様。

(御神号御神名) 唱名祈願しやう みやう き がん

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

・ ・ ・ ・

生神金光大神

天地の大親神様。

* 時に、願う人名・事名を間に挿入して繰り返し奉唱する。

神しん 徳とく 賛さん 詞じ

仰あおぎまつれば天てん高たかく(先唱者) 仰あおぎまつれば天てん高たかくおろが 拜まみまつれば地ちは厚あつし。

神かみの恵めぐみに生いかさるる身みの幸さいわいぞありがたき。

わが生いき神かみの御取次おんとりつぎ一日ひとひも欠かくるときかのなく、

天地てんちの神かみの御守おんまもり遠とおき近ちかきの隔へだてなし。

神慈かんにいつくしみは万代よろずよに遍あまねく満みちて果はてしなく、

神量かんはからいは奇くすしくて人ひとの思おもいぞ及およばざる。

われら今こん月げつ今こん日にち礼らいびまつりてひたすらに、

神かみのみかたげを賛たえまつらん。

神かみのひれいあおを仰あおぎまつらん。

金光大神賛仰詞

生神金光大神様(先唱者)

生神金光大神様と御神号を称えて拜みまつる、

わが教祖金光大神 実意丁寧神信心をすすめ、

奇しき神みかげ蒙りたまひ、

神と人とあいよかけよで立ち行く世界の開け行くまにまに、

尊き神依さしありて 専ら御取次仕えたもうこととなりぬ。

かくて生神金光大神取次の道立ち 救わるる者数えも尽きず、

「神の助かり氏子の難なし 神のひれい見え忝し、

神が一礼申す」と神賛えられたまひぬ。

時代とき移り社会よは変わり 難かたきこと次々に起こりくるも、

信心辛抱の徳もて道立てぬきたまえば、

ついに天地金乃神その御み神名なを現あらわしたまい、

「生神金光大神差し向け 願う氏子におかげを授け理解申して聞かせ、
末々すえずえまで繁盛いたすこと、

氏子ありての神神ありての氏子上下立つようにいたす」と神かんの宣のらせたもう。

教祖金光大神終日取次の座にましまし祈念ひねもす仕え、

参まい来くる人に 「信心しておかげを受け 神になれ」と説とき論ろんし、

「人一人助ければ一人の神」と教え導き、

神願成就に身を尽くさせたまひぬ。

かくて「神からも氏子からも両方の恩人はこの方金光大神」と神かん賛たたえられ、
百日修行を果たし、

かねて仕えたまいてありし金光大神祭まつり日のその日神かん上がりましぬ。

畏かしこしや 教祖の神ありて取次の道は始まり、

代を重ねて道は伝わり、

直信じきしん先覚先師ありて道はいや広がりぬ。

ああわれら奇くすしき神縁しんえんを蒙こうむり 限りなき神恩しんおんに浴しまつる。

尊おんき御ひと一代よを偲しのび慕したいまつりて 御徳おおみとくを賛たたえ仰たぎまつる。

天^{てん}地^ち賛^{さん}仰^{ぎょう}詞^し

俯^ふ仰^{ぎょう}するに(先唱者)

蒼^{そう}天^{てん}高^{たか}く澄^すみ

壤^{じょう}地^ち厚^{あつ}く展^{ひら}けたり。

天^{てん}行^{こう}は健^{けん}にして

生^{せい}生^{せい}化^{いか}育^{いく}の恵^{けい}沢^{たく}

遍^{あまね}く万^{ばん}物^{ぶつ}を潤^{うるお}す。

地^ち文^{ぶん}は之^{これ}を享^うけて

山^{さん}紫^し水^{すい}明^{めい}の相^{そう}を呈^{てい}すと雖^{いえど}も、

落^ら花^{つか}枯^こ凋^{たう}の風^{ふう}氣^き

時^{とき}に万^{ばん}象^{しょう}を包^{つつ}む。

人^{じん}身^{しん}の一^{いち}代^{だい}亦^{また}天^{てん}地^ちの間^{かん}に在^あり。

天^{てん}寿^{じゆ}の長^{ちやう}幼^{よう}は不^ふ定^{じやう}にして人^{じん}智^ちの測^{はか}り及^{およ}ばざる處^{ところ}なれども、

正^{せい}大^{だい}なる天^{てん}地^ちは生^{せい}死^しを越^こえて万^{ばん}人^{じん}の住^す處^かなり。

神愛は無量にして我が生神の御取次四時常に開かれてあり。
神慮は深遠にして我が親神の神比礼四海齊しく隔てあるなし。

奇しきかな今此の神縁に浴することを得たり。

只管身命の来処を奉謝し、
一心に積徳の信行を恪勤し、
以って天地の無窮を賛仰し奉らん。
天地の無窮を賛仰し奉らん。

神人かみひとあいよかけよの生活運動

願い

御取次おんとりつぎを願ひ頂き

神のおかげにめざめ

お礼かみこころと喜びの生活をすすめ

神心かみこころとなつて人を祈り助け導き

神人かみひとの道を現そう

ごれいじん靈神総拝詞
(先唱のみ)

これがかん神いっ広まつ前に齋き祀ります
日本橋教会ゆかりのみたまのかみ靈神様。

靈れい前ぜん拜はい詞し

あわれ靈神みたまのかみたち達はや(先唱者)

遠とおく久ひさしき天地あめつちにまたなき生命いのちう享うけまして、

現うつそみ身の齡よわいの長ながき短みじかきほどほどに、

負おいもつ務つとめに勤いそしみたましひとよ一代ひとよのみあととわは永とわ久わに遺のこりて、

世よの礎いしずえいえ家の根ねざしいと言いい継つぎ語かたり伝つたえて仰あおぎまつらん。



奇くすしき神縁かんえにしこうむ蒙みりたまいいし靈神みたまのかみたち達は、

親おやがみ神みの御心みこころかしこ畏いみて生神いきがみの道みちたどりたまい、

さききの世までも持ちてゆかれ子孫までも遺る信徳積みたまひ、
厚き御慈しみ蒙らしめたまひてあるは忝かたじけなきことの極きわみにこそ。

汝いまし靈みたま神達のかみたちの尊とうときみあとた賛たえまつりつつ、

わが家の神わが神と持ち齋いっきまつりてあるをみそなわし、

親神おやがみの神引かんひきた立て蒙こうむりたまひて各おのも各おのもの身みに立たち添そわし、

人とある万よろずの業わざ過あやまつことなく務つとめしめたまひ、

信心しんじんの道迷みちまよわす失うしなわす末すえの末すえまで教おしえ伝つたえて、

家内やのうちむつび和やわららぎ立たち栄さかゆべく、

守まもり導みちびき幸さきわえたまえ。

守まもり導みちびき幸さきわえたまえ。

ご霊前ご祈念詞

一、仰ぎ奉ります（先唱者）、教祖の御跡みあとをお継ぎ下さいました歴代の金光様 金光四神貫行君しじんつらゆきのきみ、三代金光撰胤君せつたねのきみ、四代金光鑑太郎君かがみ たろうのきみ、伝道功勞の先覚先師 大阪初代白神新一郎先生しらかみ、難波初代近藤藤守先生ふじもり、東京布教の祖畑徳三郎先生そ、日本橋教会初代教会长松井鶴先生、歴代教会长・教師の霊神様れいじん（みたまのかみ 副教会长中島清先生、二代教会长松井長作先生、三代教会长松井照子先生、四代教会长畑齋先生、五代教会长畑愷先生、外））：

ご霊神様方のお導きによりまして、日本橋教会にご縁をこうむり、日夜に信心のおかげを頂いておりますこと 厚く御礼申し上げます。何卒さらには「人を助けて神も助かる」、応恩のご用にお引立て下さいますようお願い申し上げます。

一、教徒・信徒・われらが先祖祖先のみたまのかみ靈神様：　生き死にをこえて天

地の親神様のおかげを受けられ、尊い安らかなみたま靈の神様として、みたま靈の道立てのおかげをこうむられますようご祈念申し上げます。

私を始め子孫縁者の各々が、親先祖のご恩を悟り、一層日にちの信心に励み、末々安心・しん・れい・じん神靈人共栄の道を歩ませて頂けますようお導きをお願い申し上げます。

一、不時災難で亡くなられました方々よ：　天地の親神様のふところに

深く抱いだきとられましたで、みたま靈の道立てのおかげをこうむられますようご祈念申し上げます。

— 朝暮略詞 — (祖先朝暮拝詞略詞)

玉たま襪まだすきかけて祈よらな世よ々の祖おや

おやのみおやの神ちの幸はいを

(二度詠む)

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地金乃神、

生神金光大神

天地の大親神様。

祖そ 先せん 贊さん 詞じ

代よ々よの祖おやは、(先唱者)

わが家いえの神かみわが神かみと、

心こころ尽まつくして齋いっき奉まつらな。

心こころ尽まつくして齋いっき奉まつらな。

尊とうとき御祖みおやの神かみたちよ、

子孫うみのこのために家いえの柱はしらを鎮しずめ立たてたまひ、

後裔はつこのために世よの生業なりわいを守まもり助たすけたまひ、

幽世かくりよの見みえぬ界さかいにましませども、

御慈みいつくしみの御心みこころは現世うつしよにかわらせたまわず、
幸靈さきみたまのまさききく幸さきわえたまい、
奇靈くしみたまのくしびに恵めぐみたまいて、
志こころざしは真木まきの柱はしらの動うごきなく、
生業なりわいは結むすぶ綱目つなめのゆるびなく、
真心まごころきよ清きよらに励はげみ勤つとめしめたまい、
親族うからやからやわ家族あ和あらぎ合あいて、
日ひに異ひに心安うちやすく楽たのしましめたまい、
ついに現世うつしよのことおえて、
神かみの御府みかどに参まいらん時ときには、
必かならずしも迎むかえ取りたまひ、

御慈しみを蒙らしめ賜わんものと、
神の御法の妙なるを畏み忝み、
御祖の恵みのおぼろげならぬを、
嬉しむ喜びももうすことを、
御心も涼やかに聞こし召したまえともうす。

あな奇びの御祖の靈。
あな奇びの御祖の靈。
あな尊の御祖の神。
あな尊の御祖の神。

ご神訓奉体

生きても死にても

(先唱者)

生きても死にても

天と地とはわが住みかと思えよ
(二度詠む)

新靈神拝詞

あなあわれ（先唱者）　いとおしきかもにいみたま、慕わしきかもにいみたま。惚びまつるも懐かしく、惜しみまつるも限りなし。みたまの幸を祈りまつらな。心尽くして祈りまつらな。尊き神のいと子と、天地のなかに生かされて、生命の限り身を尽くし、心いたずき今ははや、身退りましぬ今ははや。現に言問うすべもなし。あわれ世に在り経しほども退りても、天地は永久にわが住みか。み心穩いに安らいて、神慈しみ受けたまえ。み心穩いに安らいて、神慈しみ受けたまえ。

日本橋教会墓前ご祈念詞

一、これに祀まつります（先唱者）、日本橋教会の初代教会長松井鶴先生、二代
教会長松井長作先生、三代教会長松井照子先生、五代教会長畑愷先やすし
生、元の副教会長中島清先生の御霊みたまの神様。本日この奥城おくつきにお引き寄
せを蒙り心新たにながおきご拝礼申し上げます。

ご霊神様方のお導きによりまして 日本橋教会にご縁をこうむり、日
夜に信心のおかげを頂いておりますこと 厚く御礼申し上げます。

何卒なにとぞさらには「人を助けて神も助かる」、応恩のご用にお引立て下さ
いますようお導きお願い申し上げます。



一、これに祀ります教徒・信徒のご霊れいじん神様方にご拝礼申し上げます。

生き死にをこえて天地の親神様のおかげを受けられ、尊い安らかな

みたま

霊の神様として、みたま霊の道立てのおかげをこうむられますようご祈念

申し上げます。

私を始め子孫縁者の各々が、親先祖のご恩を悟り、一層日にちの信心に励み、末々安心・神しん・れい・じん霊人共栄の道を歩ませて頂けますようお導き
お願い申し上げます。

歴代教主奥城拝詞おくつき

あわれこれに仰あおぎ奉まつります (先唱者)、

三代金光様金光攝胤君、
こんこう こんこうせつたねのきみ

よ 四代金光様金光鑑太郎君には、
こんこう こんこうかがみ たろうのきみ

教祖きょうそ生神金光大神様の、

厳いしき御跡みあとをお受けになりました金光し四神貫行君しじんつらゆきのきみに尚続かれ、

昼ひるとなく夜よとなく只一筋ひとすぢに御取次おんとりつぎ下さりまして、

更さらに今日こんにちの現げん教主金光様へとお繋つなぎ下さり、

私共わがらが天地金乃神様のみかこうむげを蒙こうむらせて頂たかまきしておりますことは、

忝かたじけなき限りのこととござります。

こんげつこんにち

今月今日改めまして、

歴代教主金光様こんこうの大き御徳おおみとくを仰ぎ奉り謝あおまつび奉りませば、

みこころ

御心安くもお受け下さり、

わたくし

私共が信心なほを尚また正しくお導き下さり、

人を助けて神も助かる、

神と人あいよかけよの世界実現に立ち働かせて下さりませと、

おん

ひとえに御願おんい申し上げ奉ります。

こんこう

こんこうせつたねのきみ

三代金光様金光攝胤君、

こんこう

こんこうかがみたろうのきみ

四代金光様金光鑑太郎君。

難波親教会

近藤藤守先生靈前拝詞

言いわ巻まくも尊とうときと（先唱者）
近藤藤守大人の靈神の御前を拜おろみ白もうさく、
あわれ慕したわしき昭孝あきたかの君きみはや、
若竹わかたけの若わかき頃ころおい最いと夙はやく、
初代白神大人しよだいしらかみうしの導みちびきに救すくわれ、
教祖おしえみおやの神かみに親したしく神徳しんとくを受け奉まつ
り、道みちの奥義おくがふか深く分わけ進すすまい、
不事ふじを守まもりの御名みな負おい持もちて、
取次とりつぎ助たすけの神業かんのわざに、
難波江なにわえの身みを尽つくし仕つかえ奉まつらせ、
師しの君きみの御志みこころざしを享うけ坐ましては、
教子おしえごら数多あまたは育ぐくみ、
美うまし大道おおみち弥廣いやひろ
に弥遠いやとおに弘ひろめ奉まつり、
道みちの上えに大おおき御功績みいさおた樹たて遺のこして、
神かみの巖垣いづがきたか高たく入いり立たち給たまえるあな尊とうと。

故かれ藤浪ふじなみの陰慕かげしたい寄より、
 教おしえの流掬ながれくむものら、
 大おおき恩頼みたまのふゆを仰あお
 ぎた称たえつつ、手て篤あつき信しん心じんの御手振みをよくこそ習ならい修おさめ、
 真まことの
 道みちを踐ふみ過あやまつ事ことなく、
 撓たゆみ怠おこたる事ことなく守まもり進すすみて、
 心こころにも身み
 にも家いえにも大御陰蒙おおみかげこうむり、
 世よの為ため功いさおしく務つとめ恪いそしみ、
 神御かみみ恵めぐみ
 に応こたえ奉まつるべく、
 扶あなない導みちびき給たまえと敬いやまい畏かしこみも白もうす。
 扶あなない導みちびき給たまえと敬いやまい畏かしこみも白もうす。

首都圏布教祈願詞

生神金光大神様の、

世界を包みまわさんとの、広きみ心仰ぎつつ、

われらが先覚先人の、

東あずまに道を伝えんとの、尊とうときみ跡あと偲しのびつつ、

きびしさつのる今の世に、

人を助けてわが身助かる信心を、心新たに求めゆき、

けわしさ加わる生活に、

神を生み出す信心を、心一つに磨みがきあい、

天地金乃神様の、

ごひれい輝かさんとの大願たいがんを、

おのが使命かじこと畏みて、

今こそ和賀心わがこころのときなりと、

奮ふるい立たしめたまひませ。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

首都圏布教祈願 首都圏布教祈願。

東京親教会 畑 (徳三郎) 先生靈前拜詞

あわれ尊とうときかも畑とうとの大人うしはや (先唱者)

あわれ尊とうときかも畑とうとの大人うしはや、あわれ懐なつかしきかも我が教みことえの
父尊ちちみことはや、大人うしが御功績みいさおを箱根ふたにの山やまの清しみずく高く仰まっぎ奉まっり、尊みことが

御み恵めぐみを武蔵野むさしのの小野おのの広ひろく遠とほく慕したい奉まっりて、宇豆うづの御前みまえに伊い這はい

回もとり拜おろみ称たえ奉まっらくを、御心みこころも穩おだいに受たまけ給たまい、御思みいも安やすらに

見み覧らんして、我等われら諸々もろもろが行末ゆくすえを長ながく導さきき広ひろく幸さきえませと、謹つつしみ畏かしこ

みも白もうす。

御心みこころは永と遠とに通わいて 玉鉾たまぼこの道みちの行手ゆくてを弥守いやりませ。

御心みこころは永と遠とに通わいて 玉鉾たまぼこの道みちの行手ゆくてを弥守いやりませ。

御心みこころは永と遠とに通わいて 玉鉾たまぼこの道みちの行手ゆくてを弥守いやりませ。

神人の栄光

佐藤金造作詞 尾原道春作曲 金光威和雄編曲

- 一、 天地は神のふところ 人はみな神のいとし子
かぎりなき神徳のなかに 生かさるるわれ等うれしき
- 二、 人の世にとわの光を いとし子につきぬみかげを
誓わしし教祖の神に 救わるるわれ等うれしき

おやがみさま

畑愷作詞 西村京子作曲

一、うららなる朝の 清き祈りに

おやがみさまは 御手みてを差し伸べの

我らを今日きょうも 御恵みめぐみたもう

四、はげみの昼も 眠りの夜よわも

おやがみさまは まなざし深く

我らを常に 御守みまもりたもう

親神のよぎしのままに

窪田空穂先生校閲

金光碧水・佐藤薇洞合作
清水脩作曲

一、親がみの よぎしのままに わが生神 金光大神

取次の 道立ちしより 代々よよを経て 今につづけり

二、神からも 氏子うぢこらからも 両方の 恩人おんじんなりと

親神の のらし給たまえる 生神なまがみを 賛たたえまつらん

三、神のひれ 木綿崎山ゆうぎやまに 照てり映はえて 日の光なす

取次の 道の靈光みかげを とこしえに 仰あおぎまつらん

新しいいのち

山縣二雄作詞 金光威和雄作曲

一、新しい時間が始まり 新しいいのちが生まれる

親神の恵みをうけて 生かされて生きてくるもの

はかり知れぬ深い過去から 終わりのない未来へ伝わるいのち

生神金光大神 生神金光大神 仰がせてください このいのちにみ光をみ光を

一、あけぼののきざしほのかに 目をさますいのちのはたらき

花ひらき鳥はさえずり あめつちに満ちてくる音

はかり知れぬ深い過去から 終わりのない未来へ伝わるいのち

生神金光大神 生神金光大神 聞かせてください いま天地てんちの開ける音おとその音を

世界を笑顔に（二度詠む）

疑いを放れて広き真まことの大道おおみちを開き見よ。
わが身は神徳しんとくの中に生かされてあり。

御礼おんれい、信・頼、お手伝い、
人を助けて 神も助かる、
あいよかけよで世界を笑顔に。

金光教日本橋教会